



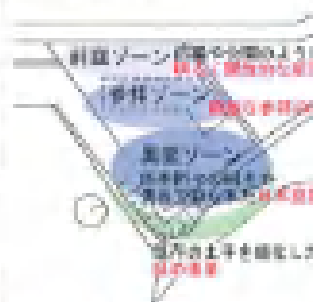
故人の尊厳を保ち、利用者が心穏やかに参拝できる和の心を基にした自然に囲まれた合葬墓地

計画全体のコンセプト

アット「結果から導かれる」を以て、
 「利用者がいつでも利用できる魅力的な合葬墓地を整備する」として、「新たな参拝者を増やし、また現在の利用者にも満足して知れぬ墓場を利用してもらえる施設」をします。
 計画の表明にあたっては、これまでの合葬施設を調査設計経験を活かし、整備方針を以下のように示します。
 -**安全性の確保**
 安全の確保コストと運営のしやすさに配慮して、清掃や維持管理が容易で負担を軽減する場とします。
 -**利用者の安心**
 空間設備を備えた「案内の参拝所」と共に「半屋外の参拝所」も設け、参拝者が集中する時期にも多くの参拝者を収容することができるようにします。四季折々の装飾を設け、四季折々の参拝の場とします。
 -**見守りの拠点**
 施設が日本庭園として敷地全体を計画し、その中に必要施設を配置し、静かな、落ち着いた雰囲気を演出して、周辺地域の景観に調和した美しい自然環境の参拝の場とします。
 横376m×縦240mの枠内に記入すること。

土地利用方針

敷地の有効活用とview observationの参拝施設を設け、施設の稼働を促進を図ります。



横376m×縦240mの枠内に記入すること。

見務実態体制

公営の合葬施設建設の設計経験のある平岡鳥之助と下村が一緒して担当します。
 特に平岡は土日本墓協会の監理、宮城県の子孫葬山形協会の監理、設計に関わってきた経験があります。各種参拝の主な設備は、建築監理技術者土木建築技術者平岡鳥之助、和装製作株式会社監理合葬式場(基本設計・実務設計)、宮城県子孫葬山形協会の監理(実務設計)、和装製作株式会社監理合葬式場(基本設計・実務設計)、宮城県子孫葬山形協会の監理(実務設計)、宮城県子孫葬山形協会の監理(実務設計)。

宮城県子孫葬山形協会



宮城県子孫葬山形協会

整備認定事業費

2021年度に建設設計費(例)：概算400万円(人件費)100万円(材料費)100万円(その他)100万円、下記の整備認定事業費内にて実際に設計を進めます。

整備認定事業費：158百万円(概算)

工務実務

施設と設備関係施設の設計等経験に基づき、また計画期間に際しての費用削減への対応を念頭に計画を進め、施設と設備に関する下記工程にて進めるとして進めます。

令和6年10月	令和6年11月	～	令和7年4月	令和7年5月	令和7年10月	令和7年11,12月	令和7年11月	令和7年3月
契約書締結	設計費見積り		基本設計完了	実施設計着手	実施設計完了	工事入札準備	工事発注	工事完了

提案書(2/3) 施設の基本構成(配置計画、平面計画、立面計画)に関する提案、施設の意匠・法面計画・景観計画に関する提案(その他社会の提案)

□施設の基本構成 配置計画

敷地全体を日本庭園として読み、東向き側の内に合同遊戯施設を配置し、必要施設は敷地のやや西側に沿って既存道路の北側に配置します。
D-2区画内側内庭園から和風建築までを貫き、敷石と植栽による空間性と応答性を備えた広場を公園のように「新緑の森」に接続して整備し、東側門のように構えた和風建築の「半屋外の参拝所」に「新緑の森」を穿つ「遊歩道」を確保された「参道」の両側を貫くことで、施設全体を和風の趣のある参拝空間として演出します。

□平面計画

参拝者は大きく分けて「半屋外の参拝所」にアプローチします。
「参道」を「半屋外の参拝所」に接続配置することで、室内に滞在が促されて「参道」「参拝所」「参道」に目が届くようになります。
例題が示す「室内の参拝所」と「半屋外の参拝所」は、一つ屋根の下で同じ方向を見て参拝できるようにします。
「室内の参拝所」の開口は「新緑の森」を見守り「参道」を眺め、
「参道」の開口は「参拝所」が参拝者が入り納める場所と直接参拝できる可視性に対応できるようにします。

□立面計画

華やかな装飾を排し、軒を長く伸ばした切妻屋根の落ち着いた色合いの和風建築とすることで、閑寂な趣と日本庭園内に馴染むような佇まいをします。
□管理運営の簡便性
管理室内側を眺めながら「参道」と「新緑の森」と「参道」の間に管理室を構えたと和風建築を配置することで「参道」全体に目が届くようにします。
□利用者の利便性
主なアプローチとなるD-2区画内から参拝施設まで一定の距離を取った「参道」を確保することで、園内を貫く「参道」の利便性を確保しやすくなります。

配置図 1/450



参拝施設平面図 1/200



□施設の意匠

株式会社建築に頼らず木造平屋建(瓦葺屋根15cm程度)を「和風建築」に軒下空間として格子「土間」をキーワードとし、「木製部材」「白漆塗材」「和紙色山吹」を使用し「和風建築」として施設を構築し「参道」を貫くことで、和風の趣情と調和した施設とします。



□法面計画

計画地全体を緑豊かな日本庭園として計画し、広大な庭園内での景観性を高める役割を担う「参道」と「新緑の森」に分け、それぞれに四季折々に色づき植物や景石を配置することで、調和のある参拝の場を構築します。

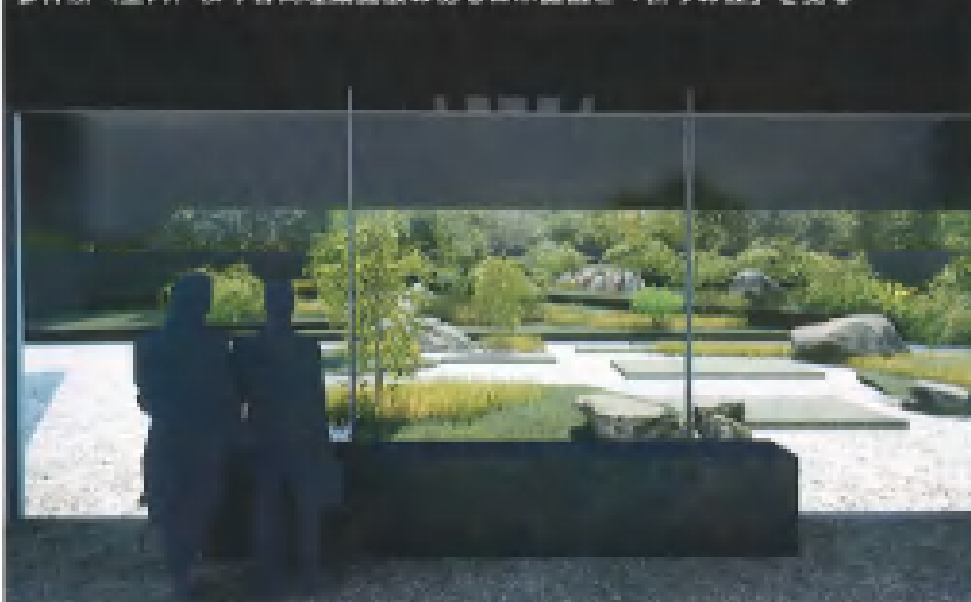


□景観計画

知多半島遊歩道の景観を日限するように増築や広場を計画し、敷地内に遊歩道・中庭・参道は緑のレイアウトを確保することで和風建築を引き立てつつ、趣意が伝わる遊歩道と調和した景観となるように配慮します。

横75m×縦210mの枠内に記入すること。

参拝所 (室内) より合同埋蔵施設のある日本庭園と「祈りの丘」を見る



□埋蔵 (庭園) 施設の仕様
 個別埋蔵：整備方針に準じ、100坪程度を室内の可動部に設置する施設とします。(コースに依り単体またはペアでの設置に対応)
 合同埋蔵：整備方針に準じ、600坪程度を土中に埋蔵する施設とします。

□納骨方法
 職員が納骨機を使用して遺骨を預け、当該施設名称に入れ替える作業の後、個別埋蔵室内の納骨部に設置します。(墓式の入骨有無は葬儀会の方針に対応できるように計画します)

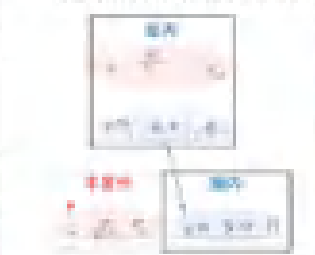
□参拝方法
 個別埋蔵：参拝前での参拝は葬儀会の方針に対応できるように計画。それにより、埋蔵より内庭等の参拝は必要充分な仕様を決定します。
 合同埋蔵：室内参拝所と半屋外参拝所を設け、参拝者が集中する時間帯にもスムーズな参拝ができるような設計とします。

幅370mm×縦840mmの枠内に記入すること。



参拝所 (室内) より参拝所 (半屋外) を見る

参拝所 (室内) より参拝所 (半屋外) を見る



埋蔵例：個別埋蔵の遺骨を土中に埋蔵し、個別埋蔵施設に納骨する方法とする。個別埋蔵施設に納骨する場合は、葬儀会の方針に準じ、埋蔵する際の仕様を決定する。

□埋蔵・改葬の容易性
 個別埋蔵：納骨所のメンテナンスにて管理可能な仕様とし、簡単に改葬できるような仕様とする。
 合同埋蔵：必要に応じて、参拝者の依頼に入念に作業を行えるように埋蔵部から取り出せるような仕様を検討します。

□参拝者の喪儀感への配慮
 遺族が故人と向き合う時間を設け、心と和らげるための環境を整えることにより、**日本庭園の景観に合った和風景観と埋蔵施設が調和した参拝空間**を創出します。

□施設・設備・植栽等の維持管理の容易性
 施設の全体形状と**調和のとれたシンボルカラー**を定めることにより、日常的に**清掃しやすい施設**とします。
 一般的な空間等設備を使用することで、設備更新のコストを抑制します。また、自然環境に優しく気候に応じた植栽を選定することで維持管理を容易にします。

参拝所 (半屋外) より合同埋蔵施設のある日本庭園と「祈りの丘」を見る



参拝所 (半屋外) より参拝所 (室内) を見る



参拝所 (半屋外) より参拝所 (室内) を見る

□サイトサインコストや施設維持への配慮
 施設名称材料の劣化対策し、景観を維持し、半屋外参拝所と古びた建物の景観を調和させることで、メンテナンスコストを削減するとともに、**経年することによる劣化を抑制**します。
 また、基礎工事時の地盤土を基礎工事にて有効活用することにより、インフラコストを低減するよう配慮します。

□更新工事・増設施設の建設に対する配慮
 個別埋蔵：屋根を劣化ではなく更新屋根にすることで、今後のサイズ増設等により**今年計画と同数の円で今後2500個分の広さを持つ埋蔵施設スペースを創出**することを可能にします。
 合同埋蔵：今後計画する個別埋蔵施設の設計に1000坪以上の施設を可能にします。



参拝所 (半屋外) より参拝所 (室内) を見る

